

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）：総合科学研究科 総合文化学専攻

（情報分析力・語学力・コミュニケーション力等の汎用的能力）

- 多様な価値観を持つ人々と理解し合うために必要なコミュニケーション能力を修得させるために、専攻共通科目として「総合文化学基礎」を配置し、さらに全てのプログラムの中に「グローバル課題解決型研修」を配置している。

（研究成果の発表等）

- 学生が見出した研究テーマについて研究指導する「特別研究」を必修科目として配置している。特別研究論文の提出後に論文要旨を学内のリポジトリで発信している。主任指導教員の指導のもと、特別研究に係る研究論文をリポジトリで発表することができる。修士論文発表会を開催し、研究成果を公表している。

（社会への貢献）

- 言語、文化、芸術、歴史に関する知識と理解を媒体にして、グローバル化する地域及び世界の諸課題に積極的に取り組むことができる姿勢と能力を修得させるために、専攻共通科目として「文化マネジメント論」を配置している。

（専門分野の基礎的な知識）

- 地域及び世界の諸課題を総合的・俯瞰的な視野のもとで理解することができる能力を修得させるために、専攻共通科目を編成し、さらに各プログラムにおいてコアになる科目（必修）を配置している。
- 文化の保存・継承・理解・発信に関する専門的な知識を修得させるために、専攻共通科目の中に「岩手文化理解論」、「岩手文化発信論」を配置している。「岩手文化理解論」は地域の文化的コンテンツを理解するための授業として配置している。「岩手文化発信論」はグローバル化する世界の中で岩手の文化を発信することの意義と方法を学修するための授業として配置している。

（専門分野の応用的な知識）

- 専門分野に関する深い知識と論理的思考能力及び表現能力を修得させるために、全てのプログラムの中に各専門領域にかかる「特論」科目を配置している。

（専門性に基ついた問題解決能力）

- 各専門領域の課題を見つけ、解決する能力を身につけさせるべく、展開科目として「特別演習科目」「研究特別演習科目」「応用特別演習科目」を配置するとともに、研究者としてそれぞれの専門性に基づく問題の解決を図り、その成果を公表すべく、「特別研究」を課している。